

高速バスの利用を促す要因とは？ ーテキストマイニングによるイメージの構造化ー

情報科学ゼミナール 1315045 中村 美優

1. 研究動機・研究目的

近年、高速バスは大きな事故が多く発生している。2007年2月の「あずみ野観光事故」、2012年4月の「関越道高速ツアーバス事故」など居眠り運転による重大事故が発生した。このような大きな事故がいくつか発生したことにより高速バスのイメージが悪くなり、安全性が疑われるようになった。そんな中、関越自動車道での事故を受け高速バスの制度が変わり、「新高速乗合バス」への一本化にするなどといった安全対策を講じてきた。しかしながら、2014年に行われた高速バス利用に関するアンケート調査から高速バスの安全性が高まっていると思うかという質問で全体の約3割は安全性の向上を感じておらず、若年層ほどその割合は高い。そして2016年には軽井沢でのスキーバスの転落事故が起きた。軽井沢での事故を起こした高速バスには39名乗車していて、そのうち32名が大学生であった。この事故により大学生などの若い世代は他人ごとではないように感じていた。高速バスの利用者は若い世代が多いのでこの事故による影響は大きなものであった。このように大きな事故がなかなか無くならない高速バスであるが、高速乗合バスの輸送人員は2005年から年々増加していて、2009年、2010年、2011年は少し減少したが、それからまた増加し続けている。高速バスは大きな事故がいくつか発生したことにより安全性が疑われ、さらには2017年には乗りたくない乗り物ランキング第1位に選ばれている。しかしながら、年々利用者数が増えているのはなぜなのか。最近は高速バスの事故についての研究や安全対策といった研究が多く進められている。しかしながら、高速バスのポジティブな面を見つけ、高速バス利用者の増加を促進するような研究は多くはない。そこで本研究は、なぜ安全性が疑われるような高速バスを多くの人が利用するのか、インターネットから高速バスのイメージや長距離移動をする際の他の交通手段のイメージを調査し、高速バス業界の発展のために高速バスをもっと多くの人に利用してもらうことを目的とする。

2. 研究方法

インターネット内で主に高速バス（夜行バス・深夜バス）、飛行機、新幹線などの交通手段の比較に関する記事を検索し、11つの記事を見つけ言語データを作成した。分析方法とテキストマイニングソフト Khcoder によるテキストマイニング分析を行い、言語データから共起ネットワーク図を作成した。

3. 主な結果と考察

共起ネットワーク図の作成を通して、交通手段比較因子、飛行機・新幹線因子、高速バス因子、夜行バス・深夜バス因子、予約サイト因子、スキー因子、旅因子、チケット因子、メリット・デメリット因子の9因子を抽出した。そして、これらの因子を高速バスに関する因子と高速バスに関する因子の大きく2つに分けた。「高速バス因子」、「夜行バス・深夜バス因子」、「予約サイト因子」、「スキー因子」が高速バスに関する因子であり、「交通手段比較因子」、「飛行機・新幹線因子」、「旅因子」、「チケット因子」、「メリット・デメリット因子」が他交通手段の比較に関する因子である。全体の考察としては、交通手段の比較の際に最も「運賃」を比較することが多いことがわかった。その他には、「時間」、「快適さ」といった要因が多く抽出された。「時間」では高速バスは他の交通手段には劣る。「快適さ」では今までは体力がないと乗れないというような声が多かったが、近年では高速バスが快適になってきているので、体力がないお年寄りでも乗れるようになってきている。様々な年代から選ばれ、好んで高速バスを乗る人が増えているのではないかと思う。また、高速バスは事故が多く、危険や怖いというネガティブな言葉が抽出され、悪いイメージであるのだろうと思っていた。しかし、事故や危険という言葉はほとんど抽出されず、事故のイメージよりも運賃の安さや近年向上している快適さ、ネガティブなイメージでも時間がかかることや疲れるといったものが高速バスのイメージでとしてあげられた。

4. 結論

交通手段を選択するにあたって、重要視することは「価格」「時間」「快適さ」である。何を重視するかは目的や行動する人数やその人次第で変わってくる。高速バスは事故のイメージはそれほど強くなく、若者や帰省する人が多く利用し、「価格」を重視している人が多く利用している。「時間」は場所によっては高速バスの所要時間が短い。「快適さ」はあまり良くないと世間から思われている高速バスだが、近年は段々と「快適さ」が向上してきている。幅広い世代に合わせて高速バスが進化していくことで高速バス利用者はさらに増加していくであろう。

5. 卒業論文の執筆を終えて

まず、卒業論文を終えて研究というものの難しさを実感した。様々な視点から物事を見ること、自分の考えを人にうまく表現することなど自分に足りないものが見えたような気がする。その足りない部分をこれから補い、立派な社会人になれるように精進していきたい。そして、卒業論文に関わってくださった方々に感謝の気持ちを示したい。様々な方に支えられ自分の成長に繋がっていくのだと感じることができた。これからも支えてくれる方々に感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思う。